



彦根市立西中学校

学校の特徴

主な学校行事・生徒会行事



4月 花見弁当



4月 湖岸清掃



5月 生徒総会



7月 学年学習発表会



9月 ジャンプ大会



9月 全校学習発表会



11月 合唱コンクール



12月 生徒会チャレンジウィーク



1月 生徒会カルタ大会



1日・15日 生徒会 挨拶運動

学校教育の重点

滋賀県教育委員会の重点

基本…未来を拓く心豊かでたくましい人づくり

- 基礎基本の徹底を図り、個性を伸ばす教育
- 自ら学び・考え・行動する力をはぐくむ教育
- 豊かな人間性と社会性をはぐくむ教育
- 地域に開かれた信頼される学校づくり

彦根市教育委員会の重点

- ◎ 心身一如を教育理念に智・徳・体、不易と流行等調和のとれた教育
- ◎ 「学力、人間力、社会力」をはぐくむ教育の充実・3つの根っこの育成と学校力の向上
- 確かな学力を向上させる「根っこ」の育成
- よりよく生きる人間としての「根っこ」の育成
- 家庭・地域に信頼される学校の「根っこ」の育成

本校の実態

彦根城内に位置する由緒ある学校で、保護者や地域住民の学校教育への期待は大変大きく内容は多岐にわたる。

近年、大型量販店や新興住宅地の開発もあるが、現在の所、生徒数は減少傾向である。校区外からの転入者は多い。

生徒の実態・課題

- ① 素直で明るく誠実であり、心の優しい生徒が多い。
- ② 覇気や気概に欠け、周囲の人との関わりの弱さから、積極的に課題を見つけ解決することがやや苦手である。
- ③ 生徒個々の学力差や学習習慣の差が大きく、意欲に欠ける生徒が多い。

*昨年度の学校評価からの課題

- (1) 家庭学習の習慣化
- (2) 地域活動への参画・参加
- (3) 時間のけじめ、服装身なり、言葉遣いへの意識化
- (4) 授業への集中力の向上
- (5) 挨拶の日常化

教師の実態

生徒の瞳が輝く学校（楽校）をめざし、前年度後期において、特に支援を要する生徒の実態とあり方について研修し、互いが連携・協力をしながら実践活動を進めることができた。

学校教育目標

心豊かで たくましい実践力をもった生徒の育成

- 校訓 誠実・自主・創造
- 合い言葉 瞳が輝く明るい学校（楽校）
- 一校一行 さわやかな挨拶を交わそう

生きる力の育成 基礎基本の定着 自ら学び自ら考える力の育成
 長期欠席、不登校、別室登校等を含む特別支援を要する生徒への教育の推進
 西中ブロック小中連携の推進 地域の教育力の活用 生徒指導（いじめ防止）の推進

めざす生徒像

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> ① 明るい挨拶ができる生徒 ② よく考え、正しく判断ができる生徒 ③ 自分を鍛え、やり抜くことができる生徒 ④ 人を敬愛し、協力することができる生徒 ⑤ 郷土を愛し、奉仕することができる生徒 | <ul style="list-style-type: none"> ・一校一行の推進 ・学級活動・生徒会活動の充実、規範意識の育成 ・部活動への積極的参加、活性化 自学自習の確立 ・人権教育・道徳教育の推進 ・ボランティア活動の推進、地域行事への積極的な参加 |
|---|---|

我が校の教師の姿勢

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員の専門性・指導力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職経験・職務に応じた主体的な研修の充実 ・授業研究等とおした実践的な研修・研究の充実（特別支援教育の充実、学年・学級経営の充実） |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員の人間性・資質の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権意識や人間性を高める研修の充実 ・自らが学び、視野を広げる体験的な研修の充実（学び合い高め合う教職員集団） |

学年目標

- 1年 「基本的生活習慣を身につけよう！ともに学び支え合いながら高め合っていける集団になろう！物ごとをよく考え、正しく判断し、行動できる生徒になろう！」
- 2年 「中堅学年としての自覚をもち、共に考え、思いやり、磨きあえる仲間になろう！」
- 3年 「将来の進路をしっかりとみつめ、たくましく意欲的に実践できる生徒になろう！ お互いに学び合い、支え合い、高めあえる生徒になろう！」

本年度の西中教育の重点の紹介

◎生徒の生きる力の育成を柱に、三つの重点目標を掲げ全職員一丸となって取り組みます。

- ① 長期欠席・不登校・別室登校生徒を含む特別支援を要する生徒への教育の推進します。
- ② わかる授業への工夫・改善に取り組み、基礎基本の定着と自ら学び自ら考える力の育成を図ります。
- ③ 西中ブロック各校園・関係団体・地域との連携を密に、地域に貢献できる生徒の育成を図ります。

◎具体的方策として、本年度新たに次のことを取り組みます。

知の【根っこ】づくり

- 確かな学力を向上させる生徒の育成のため、図書館教育の推進と読書活動の充実を図ります。
- その他（これまでの継続取り組み）
 - ・教育課程の編成・実施・評価の充実と校内研究の推進、各教科における「目的に応じて書く力」の育成を図ります。
 - ・教科の基礎・基本を確実に身に付けさせる指導を徹底し、そのための少人数等の授業の工夫と充実、個に応じたきめ細かな学習支援の充実、放課後学習（チューター）相談室の効果的な活用、家庭学習の習慣化（宿題の見直し）に取り組みます。

心と体の【根っこ】づくり

- 長期欠席・不登校・別室登校生徒を含む特別支援を要する生徒への対応に全力で取り組み、個別の教育支援計画の作成・特別支援教育研修の充実に努め、全生徒の「瞳が輝く明るい学校（楽校）」を目指します。
- その他（これまでの継続取り組み）
 - ・心にひびく道徳教育の推進、朝読書の充実と「心にひびく話」の実践、挨拶運動の強化、心にひびき体で表す人権教育の推進、人権が大切にされる環境づくり（啓発活動と落書き点検）、自己指導力を育む生徒指導の充実、食育の推進、学校行事・生徒会・部活動等の活発化を目指します。
 - ・西中ブロック各校園との連携（教員/児童・生徒交流）を図り、西中ブロックスタンダードの推進（幼小中連携項目の挨拶・学習規律・自学自習の習慣化と共通実践）を図ります。

ふるさとの【根っこ】づくり

- 様々な地域行事に主体的に参画し、地域に貢献できる人間の育成と郷土を愛し奉仕することができる生徒の育成に努めます。
- その他（これまでの継続取り組み）
 - ・総合的な学習の時間「弘道館セミナー」の一層の充実と改訂に伴う見直し、社会の変化に対応する教育（情報教育、国際理解教育、環境教育）の推進を図ります。
 - ・キャリア教育の推進と進路体験学習の充実、福祉・ボランティア活動の推進、安心して安全に生活できる環境の整備、「生きる力」を育てるPTA活動との連携、学校通信「きぼう」の情報発信・「西中教育を語る会」の実施等を通して、より良い学校づくりを目指します。

★ 地域の皆さん、各種団体の皆さん、そして、保護者の皆さん

これからの社会で活躍してくれる人間の育成のため、西中学校は頑張ります。
ご支援とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

本年度の校内研究・研修について

◎下記の内容で取り組み教育実践に生かします。

- (1) 研究主題 「一人ひとりが生きる学びの場の創造」
～教育的ニーズに応じた個別支援～

(2) 主題設定の理由

本校では、平成 18・19 年度においては、「学びの習慣を身につけ、意欲的に学習に取り組む授業づくり」をテーマに掲げ、「確かな学力」を身につけるため指導方法の改善や工夫の研究を進めてきました。一人ひとりの実態に応じた指導方法のありかたについても、研修を深めてきました。こうしたなか、特に「特別支援教育」にかかわる課題も多くさまざまな学習面で見られるようになってきました。そこで平成 20 年度においては、「特別支援教育」の推進に焦点をあて、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するための適切な指導及び必要な支援のあり方を探ることとしました。また、本校では「支援の必要な対象を発達障害を含むすべての障害のある生徒に加え、通常の学級における学習・行動・生活面における課題のある生徒」として広義にとらえ、「支援を必要とする生徒への支援の手立ては、その生徒だけでなく、他の生徒へに対しても有効である」との仮説から本主題を設定しました。

(3) 研究目標

- ①特別な教育的支援を必要とする生徒の実態を把握し、学校・学年・学級全体としての支援体制の改善を図るとともに、有効な手立てを明らかにします。…（個別の教育支援計画の策定）
②特別支援の手立てを生かした授業の工夫と改善を図り、わかる授業を展開します。…（授業の改善と工夫）

(4) 研究内容

○仮説 「生徒への教育的支援の手立てを明らかにし、その手立てを授業をはじめとする学校生活の様々な場面で生かすことにより、確かな学力を身につけ、豊かな人間性の育成につながるであろう」

○研究目標

- ①特別な教育的支援を必要とする生徒の実態を把握し、学校・学年・学級全体としての支援体制の改善を図るとともに、有効な手立てを明らかにします。…（個別支援）
②特別支援の手立てを生かした授業の工夫と改善を図り、「わかる授業」を展開します。…（授業改善）

○研究方法

- ①校内体制づくり …定期開催の校内委員会の設置
（ア）関係機関との連携体制（システムづくり）
（イ）支援を必要とする生徒の実態把握
（ウ）支援のあり方の検討（P-D-C-A）…（学習環境の整備、個人分析・対応策検討）
（エ）研修会の開催、啓発（理解、協力）
- ②情報交換と共通理解
（ア）家庭・学校・相談機関
（イ）校内の情報交換と課題確認
- ③授業改善 …研究授業（教科、道徳、学活、総合的な学習）
（ア）支援教育の手立てを用いた授業実践
（イ）授業の組み立ての工夫
（ウ）発問、指示の工夫
（エ）板書の工夫
（オ）ノート指導
（カ）個別支援計画の作成と見直し
- ④特別支援教育（発達障害のある生徒への対応）
（ア）教育相談（不登校生徒やいじめ等を受けやすい生徒への対応）
（イ）人権教育（学級づくり）
（ウ）保護者等への啓発